

いものでも製作を行うこともある。したがって製作貯蔵品の範囲は本社では一定せず、工場長が地方資材部長と協議して定めることになっている。しかしながら製作貯蔵品を工場で作成する場合は、素材のみ購入し、必要のつど製作を行えばよく、また部品として購入する場合は、工事計画が明らかであり、必要数の部品も予定されて過剰品とならぬよう準備しなければならないので、製作貯蔵品の製作の方に傾くおそれがないとはいえない。したがって部内で製作するか、購入するかは単に工場経営の問題であるのみでなく、資材の調達管理面においても重要な問題であるので、この範囲の決定は慎重に行わなければならないものである。

(2) 副産品および発生品 副産品とは工作上生じた物品の断片・削り屑等をいい、職場で発生したこれらの副産品は利材職場に収集し、利材職場に駐在する用品倉庫員(物品出納員)は毎日、利材職場から副産品収集日報によって副産品の引渡しを受け、現品票に受入れる。

現品票に受入れた副産品は毎旬、発生品受入票によって、再使用できるものは乙種貯蔵品に、その他は売却予定品として丙種貯蔵品にそれぞれ編入する。この場合の収入科目は工場収入(車両工場収入、副産品収入)とする。また車両解体工事、施設保守工事に伴う発生品およびその他の原因によって発生した物品等は、副産品の場合と同様に発生品受入票によって乙種貯蔵品または丙種貯蔵品に編入するが、この場合の収入科目は、車両解体等の財産除却による場合は貸方を除却費(除却額一貸方)とし、施設保守工事による場合は、貸方を工場経費(工場施設保守材料一貸方)とし、その他の場合は営業外収入(貯蔵品へ繰入)とする。

このように発生原因が異なると、貯蔵品編入の場合の貸方科目はそれぞれ異なるのであるが、貯蔵品の管理としては、発生原因別に区分せず、同一の帳簿で記録整理している。

(3) 区配給物品 区配給とは工場からその修繕受持区に対して貯蔵品を配給することであるが、製作貯蔵品以外の貯蔵品については保管転換によって現品を送付し、製作貯蔵品については受持区別に保有量を定め、受持区で製作貯蔵品を使用した場合には工場から逐次充当しておく方法をとっている。受持区では自区で保有する製作貯蔵品の保有品目表を作成し、保有品目については現品票で数量のみの受払の整理を行い、工場用品倉庫では、保有箇所別の内訳付きの出納帳によって受払を整理する。

受持区で製作貯蔵品を使用した場合は、原則として使用量と同量を補充請求する。この場合は使用報告兼引渡票を使用するのであるが、使用報告には使用量を、引渡票には引渡請求量を記載して用品倉庫長に請求する。

工事の都合で一時的に使用量より多く請求する場合、および臨時的に保有品目と異なる品目を請求するときは、使用報告には使用額を記載し、引渡票にはその異なる数量または品目を記載して請求し、記事欄にその旨を明記する。また一時的に使用量より少量を必要とする場合には、保有量に達する数量を請求し、記事欄には一時的には、使用量より少量の補充でよいことを明記しておく。これは区別の保有量はつねにその設定数まで補充しておくことを原則としているからである。

(4) 職場用品 工場の各職場で使用される物品は、職場からの請求によって倉庫から引渡されるのであるが、この場合は使用時期にあわせて現品を提供し、原価計算を適正に行うため必要以上のものを職場に保有させないことを原則としている。したがって職場用品の請求および払出はつきよって行われる。

職場長は使用する物品を物品領収券で用品倉庫長に請求する。この場合日常行う修繕工事について毎日必要量を請求し、車両改造のような工事、すなわち工事経費の工事に使用するような特定の物品については、当該工事に必要な数量をとりまとめて請求する。数量をとりまとめて請求を受けた場合でも用品倉庫長は、工事の進ちょく状況に応じて引渡数量を分割して引渡す用意が肝要である。

当該工事が終了したとき、その工事に使用するために払い出した物品のうち未使用のものがあった場合は、返納引渡票により、もどし材料として倉庫に払い入させ、貯蔵品出納帳の払出の更正を行うことによって原価計算を適正に行うようにする。したがってもどし材料は工事別に行って原価を低減すべきであって、とくに工事経費の工事の場合にはその処理を厳重に行う必要がある。

職場の未使用物品の確認は困難な問題であるが、物品領収券によって工作番号別の使用材料と、材料計画の数量とを比較して、その差額から推定して調査を行うとともに、職場においてある材料品のたな卸しを行い、未成品と未使用物品の範囲をは握する等の処理を行う必要がある。

(5) 工場予備品 工場予備品についても製作貯蔵品と同様に、受持区別に保有量を設けておくのであるが、製作貯蔵品が材料として消費され、当該工事費として計算されるのに対し、工場予備品は加修の上反復使用するという性格であるため、その加修費のみが当該工事費に計上される。このため区において損品となったものが工場修繕品送状によって工場に送付された場合、工場ではその損品を修繕してから、発送区に返送するという方法をとらず、あらかじめ修繕しておいた予備品をただちに区に送付する方法をとっている。つまり修繕品はプールされて加修され、区から送付された修繕品と引換に加修品を送付できる体制をとっていることから、これらの物品を工場予備品と呼んでいるのである。(清水光利)

こうじょうようひんこ 工場用品庫 国鉄の地方資材部の現業機関。そのおもな担当業務は、被服工場において使用する貯蔵品および製作した貯蔵品の出納・保管および配給である。すなわち被服工場用品庫は、被服類の製作に必要な資材および被服工場で製作した貯蔵品の保管・配給等を専門に行うところであって、一般の用品庫とはその対象を異にしている。

工場用品庫は、被服工場の置かれている大崎および大宮の2箇所を設置されている。なお工場(車両)および自動車工場にも工場用品庫が置かれていたが、工場および自動車工場における用品制度を合理化するため、地方資材部から分離して工場および自動車工場に所属させ、工場および自動車工場の内部組織に改組して用品倉庫と称している。

工場用品庫には庫長が置かれ、地方資材部長の指揮を受けて助役、事務掛、技術掛、自動車運転士、用品手、守衛および雑務手を指揮監督し、工場用品庫に属するいっさいの業務を処理している。これらの職員を工場用品庫従事員といい約70人いる。(宮坂正直)

こうしんアルミニウムよりせん 鋼心アルミニウムより線(英) aluminium cable steel reinforced; A. C. S. R. 電気導体として硬アルミ線を、引張強さの大きい鋼線または鋼より線の周囲により合わせたもので、硬銅線にくらべて導電率は低いから、長径間箇所や高電圧送電線路に多く使用される。

アルミは銅より軟質であるから、電線支持点付近は微風による振動で疲労劣化し、アルミの部分が切断するおそれがあるの